

水俣市教育委員会点検・評価報告書

(平成22年度実績)

平成23年10月

水俣市教育委員会

## 目次

点検・評価について	1
市重要政策・事業	
小中学校再編成推進事業	3
小中学校耐震化推進事業	5
学校エコ改修と環境教育事業	7
日本一の読書のまちづくり	10
その他の重要政策・事業	
学力向上対策事業	12
いじめ・虐待・不登校児童生徒対策事業	14
環境教育（学校版環境 I S O）の推進	16
人権教育推進事業	18
文化会館自主文化事業	20
公民館自主事業	22
市民スポーツの推進とスポーツ振興計画策定	24
給食センターにおける食育・地産地消推進事業	26
第66回熊本県民体育祭水俣市・葦北郡大会開催準備	28

## 点検・評価について

### 1 経緯

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）の一部改正により、平成 20 年 4 月から、教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（以下「点検・評価」という。）を行い、その結果の報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することとされました。

この報告書は、これに基づいて点検・評価を行ったものです。

### 2 点検・評価の対象

点検・評価の対象は水俣市教育委員会に権限に属する事務のうち、重要な政策・事業とされるものを対象とし、以下のとおり区分しています。

#### (1) 市重要政策・事業

教育委員会で重要な政策・事業としたもののうち、水俣市政策事業評価管理システム（以下、「政策事業評価」という。）において、特に重要とされた政策・事業

#### (2) その他の政策・事業

上記以外のもの

### 3 点検・評価の方法

点検・評価の方法は、政策事業評価の手法を活用して実施することとしました。

### 4 学識経験者の知見の活用

地教行法第 27 条第 2 項の規定による有識者の知見の活用については、教育委員会事務局が行った点検・評価（自己評価）の結果について、政策事業評価における市民監査委員 2 名から意見を伺いました。

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

様式1:重要政策実施状況評価表

番号	IV-1		
重点戦略名	郷土の新しい公共を担う人を育てるまち	重要政策名	小中学校再編成推進事業
事業期間	平成21年度から平成23年度	担当課	教育総務課

1、重要政策の目的・目標

事業の概要(目的、内容)

水俣市では、過疎化、少子高齢化に伴う児童生徒数の減少により学校の小規模化が進んでおり、教育環境の維持・向上を図ることを目的に、小中学校の再編成を実施している。  
平成23年4月には、中学校の再編成を計画しており、7校を4校とする予定である。

2、投入経費と指標

(1) 投入経費 (単位:千円)	平成21年度	平成22年度	平成23年度
事業費 :A (内市費)	610 (610)	21,196 (16,616)	2,046 (2,046)
換算人件費:B	6,480	6,480	6,480
投入経費 :A + B	7,090	27,676	8,526
(参考)間接事業費	0	0	0

※換算人件費算出は事業に従事した延べ日数に日当(27千円)を乗じて算出すること。

※(参考)間接事業費は、市予算・国県補助事業費以外で、事業を行うにあたり投入された経費を記入すること。

(2) 活動指標(実行手段)

	平成21年度	平成22年度	平成23年度
目標	再編成に向けた準備	再編成に向けた準備	新中学校開校4/1
実績	説明会開催(5回)、再編成協議会の開催(3回)、中学校再編成準備委員会の設立、閉校準備委員会の設立	再編成協議会の開催(2回)、中学校再編成準備委員会の開催、閉校準備委員会への助成・協力	

活動指標の説明(事業として何を実施したか)

各使用校舎ごとの中学校再編成準備委員会を中心に、中学校再編成に向けた具体的な検討を行った。

(3) 成果指標

	平成21年度	平成22年度	平成23年度
指標の目標 再編成の実施	中学校再編成に向けた準備	中学校再編成に向けた準備	
指標の実績 再編成に関する準備の推進	中学校再編成へ向けた方針決定 中学校名案の選定 制服等の検討開始	制服、校歌・校章等の検討	

成果指標の説明(活動の結果目標に照らしてどのような効果があったか)

制服や校歌・校章、教育内容、部活動、スクールバスや通学路、備品等の移転などについて、各中学校再編成準備委員会を中心に具体的な協議、検討作業を行ってきた。

3、状況評価(妥当性・達成度・効率性)

(1) 活動指標に対する達成度	点数	理由:(この事業は当初の目標や指標を達成できたか)
<input type="checkbox"/> 達成度100%以上	3	各使用校舎ごとの中学校再編成準備委員会において、具体的な検討を行ってきた。 学校名の問題等もあり、校歌・校章の検討など一部作業が遅れている部分もあるが、概ね当初の目標どおり活動することができたと思われる。
<input checked="" type="checkbox"/> 達成度60～99%	2	
<input type="checkbox"/> 達成度30～59%	1	
<input type="checkbox"/> 達成度29%以下	0	
(2) 成果指標に対する達成度	点数	理由:(この事業は目的に沿って成果をあげられたか)
<input type="checkbox"/> 大変成果有	3	制服や校歌・校章、教育内容、部活動、スクールバスや通学路、備品等の移転などについて、各中学校再編成準備委員会を中心に具体的な協議、検討作業を行ったほか、スクールバスの購入や必要な備品等の更新を行っている。 また、2月には、教育委員会主催の合同閉校式、各学校ごとの閉校式典が行われた。
<input checked="" type="checkbox"/> 概ね成果有	2	
<input type="checkbox"/> ほぼ成果無	0	
<input type="checkbox"/> 成果指標無	-1	
(3) 効率性	点数	理由:(活動量を下げずに経費削減、事業期間短縮、質・量の向上ができたか)
<input type="checkbox"/> 大変効率よくできた	3	中学校の再編成にあたっては、教育委員会や学校はもちろん、PTA、地域などとも連携して推進する必要がある、中学校再編成準備委員会の開催により、より連携して開校へ向けた準備を進めることができたと思われる。
<input checked="" type="checkbox"/> 概ね効率よくできた	2	
<input type="checkbox"/> 効率性が低かった	1	
<input type="checkbox"/> 全く効率性に欠けていた	0	

総合評価	6 点		
A かなりの成果を上げ、さらなる向上を目指す重要政策 (9点～7点)		評価	B
B 一応の成果を上げているが、維持していく上で改善を必要とする重要政策(6点～4点)			
C 早急な見直しが必要な重要政策 (3点～2点)			
D 当初の目的を達成していないなど、事業そのものの継続が困難な重要政策 (1点～-1点)			

4、今後の事業の方向性(課題と見直し)

(1) 課題	今後の方向性	維持向上	改善	見直し	休止	終了
(2) 見直しの具体的内容						

5、重要政策に対する意見

(1) 政策評価委員	色々な意見・要望があるなか、PTAや地域を交えた中学校再編準備委員会を中心に検討を重ね中学校の再編成を完了することができた。
(2) 市民監査委員	教育委員会・学校・PTA・地域の連携により、中学校の再編成が完了しました。新しく編成された中学校の発展を祈ります。
(3) 教育委員	いろいろな課題を克服して、水俣の現状にあった再編成を完了できたことは評価できる。また、合同閉校式を行ったことで、新しい学校をみんなで作るという意欲と期待が高まったように感じた。どの中学校もスムーズなスタートを切っており、今後の各学校の地域に根ざした特色ある取り組みが期待される。

様式1:重要政策実施状況評価表

番号	IV-2		
重点戦略名	郷土の新しい公共を担う人を育てるまち	重要政策名	小中学校耐震化推進事業
事業期間	平成21年度から平成23年度	担当課	教育総務課

1、重要政策の目的・目標

事業の概要(目的、内容)

学校施設は、多くの児童生徒等が一日の大半を過ごす学習、生活等の場であることから、地震発生時においては、児童生徒等の人命を守るとともに、被災後の教育活動等の早期再開を可能とするため、施設や設備の損傷を最小限にとどめることなど、十分な耐震性能を持たせて学校施設を整備することが重要であります。

そのため、昭和56年以前に旧耐震基準で建設された学校施設について、耐震診断及び耐震補強工事を実施し、学校施設の耐震性能を確保することを目的とする。

2、投入経費と指標

(1) 投入経費 (単位:千円)	平成21年度	平成22年度	平成23年度
事業費 :A (内市費)	30,765 (22,511)	520,215 (180,238)	214,621 (135,796)
換算人件費 :B	810	1,280	1,280
投入経費 :A + B	31,575	521,495	215,901
(参考)間接事業費	0	0	0

※換算人件費算出は事業に従事した延べ日数に日当(27千円)を乗じて算出すること。  
 ※(参考)間接事業費は、市予算・国県補助事業費以外で、事業を行うにあたり投入された経費を記入すること。

(2) 活動指標(実行手段)	平成21年度	平成22年度	平成23年度
目標	耐震診断の完了 実施設計着手	耐震補強工事の実施(一小、二小、袋小中、葛渡小中、久木野中、湯出中) 実施設計の着手・完了(二小、水東小)	耐震補強工事の実施(二小、水東小)
実績	耐震診断の完了 実施設計着手	耐震補強工事の完了 実施設計の着手・完了(二小、水東小)	

活動指標の説明(事業として何を実施したか)

耐震診断の実施及び完了  
 実施設計の実施及び完了  
 耐震補強工事の実施及び完了

(3) 成果指標	平成21年度	平成22年度	平成23年度
指標の目標 実施設計の実施及び完了・耐震補強工事の実施及び完了	耐震診断の完了 実施設計の実施	耐震補強工事の完了 8棟 (体育館)一小、二小、袋小、袋中、湯出中、久木野中 (校舎)葛渡小、葛渡中	耐震補強工事の実施 2棟(校舎)二小、水東小
指標の実績 実施設計の実施及び完了・耐震補強工事の実施及び完了	耐震診断の完了 実施設計の実施	耐震補強工事の完了 8棟 (体育館)一小、二小、袋小、袋中、湯出中、久木野中 (校舎)葛渡小、葛渡中	

成果指標の説明(活動の結果目標に照らしてどのような効果があったか)

耐震診断の結果、対象21棟中15棟について耐震性能が不足していることが判明した。  
 耐震性能が不足している棟について、平成22年度中に15棟中8棟の耐震補強工事の完了を目指し、これを完了することができた。

3、状況評価(妥当性・達成度・効率性)

(1) 活動指標に対する達成度	点数	理由:(この事業は当初の目標や指標を達成できたか)
<input checked="" type="checkbox"/> 達成度100%以上 <input type="checkbox"/> 達成度60~99% <input type="checkbox"/> 達成度30~59% <input type="checkbox"/> 達成度29%以下	3 2 1 0	予定どおり実施することができた
(2) 成果指標に対する達成度	点数	理由:(この事業は目的に沿って成果をあげられたか)
<input checked="" type="checkbox"/> 大変成果有 <input type="checkbox"/> 概ね成果有 <input type="checkbox"/> ほぼ成果無 <input type="checkbox"/> 成果指標無	3 2 0 -1	工事竣工に伴い、耐震性能を確保することができた
(3) 効率性	点数	理由:(活動量を下げずに経費削減、事業期間短縮、質・量の向上ができたか)
<input checked="" type="checkbox"/> 大変効率よくできた <input type="checkbox"/> 概ね効率よくできた <input type="checkbox"/> 効率性が低かった <input type="checkbox"/> 全く効率性に欠けていた	3 2 1 0	一部工期の短縮が図れた。また、工事を遅滞なく遂行することができた。 指名競争入札により大幅な経費削減を図れた。

総合評価	9点		
A かなりの成果を上げ、さらなる向上を目指す重要政策 (9点~7点)		評価	A
B 一応の成果を上げているが、維持していく上で改善を必要とする重要政策(6点~4点)			
C 早急な見直しが必要な重要政策 (3点~2点)			
D 当初の目的を達成していないなど、事業そのものの継続が困難な重要政策 (1点~-1点)			

4、今後の事業の方向性(課題と見直し)

(1) 課題	今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 維持向	<input type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 見直し	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 終了
今後、耐震化事業を進めるうえで、専門的知識を所有している職員が少なく、事業実施期間等に影響を及ぼす可能性があるため、専門的知識を所有している職員の投与が必要と考える。						
(2) 見直しの具体的内容	耐震化については、早急に実施する必要があるため、計画について現段階での見直しは考えていない。					

5、重要政策に対する意見

(1) 政策評価委員	子どもたちが安全安心な学校生活を過ごせるよう、耐震補強工事を確実に実施し、完了していただきたい。
(2) 市民監査委員	学校の耐震補強工事は、児童生徒の人命を守る策として極めて重要です。平成22年度までに15分の8の耐震補強工事が終了し、残りの15分の7の工事も滞りなく施行できるようにしたい。
(3) 教育委員	子どもたちの安全のため、早く実施できたことはよかった。残りの学校も確実・スピーディに完了していただき、児童生徒が落ち着いて学べ、保護者も安心して通学させられるようにしたい。



様式1:重要政策実施状況評価表

番号	IV-2		
重点戦略名	学力向上・人づくり推進プログラム	重要政策名	学校エコ改修と環境教育事業
事業期間	平成21年度から平成23年度	担当課	教育総務課

1、重要政策の目的・目標

事業の概要(目的、内容)

本事業では、発注者となる自治体職員、受注者である建築技術者、そして利用者である教師など学校関係者が参加して行う「エコ改修検討会」の中で、環境工学の基礎知識やローテクから最先端の環境技術のこと、効果的な運用方法について学びます。

そして、地域の環境を活かした快適な学校を共に考え、地域に相応したエコ改修の在り方を構想します。このプロセスを通じて地域の環境建築の担い手を養成することを目的としています。

また、建物のエコ改修と併せて、子どもたちが学ぶ学校を体感学習の生きた教材として活用できるよう、学校全体で環境教育に取り組みます。本市では、市内全小中学校の環境担当教師を対象として、「環境教育検討会」を実施して、教師自らが環境教育のプログラムづくりができるように研修を行います。また、地域の協力体制を築きながら、子どもたちへの環境教育を実践し効果を検証し、水俣市の学校に適したプログラムが実現するよう実施していきます。

そして、教師が自立して環境教育プログラムを作れるスキルを身に付けるなど、地域の環境教育リーダーが養成されることを目的としています。

このように、この事業は、単に新エネルギー機器を導入したり、校舎を省エネ化する施設整備に尽きる事業ではなく、学校の校舎、校庭などをエコ改修するのももちろんのこと、そのプロセスを通じて、民・官・学が一緒になって、学び、考え、協働し、そして地域一丸となって、地球温暖化防止を実践していく事業です。

2、投入経費と指標

(1) 投入経費 (単位:千円)	平成21年度	平成22年度	平成23年度
事業費 : A (内市費)	592 (592)	109,938 (54,970)	560,228 (280,114)
換算人件費: B	1,620	4,158	4,158
投入経費 : A + B	2,212	114,096	564,386
(参考) 間接事業費	0	0	0

※換算人件費算出は事業に従事した延べ日数に日当(27千円)を乗じて算出すること。

※(参考)間接事業費は、市予算・国県補助事業費以外で、事業を行うにあたり投入された経費を記入すること。

(2) 活動指標(実行手段)	平成21年度	平成22年度	平成23年度
目標	環境建築研究会及び環境教育研究会の設置並びに学校における環境調査の実施。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6回、エコ改修検討会の実施</li> <li>・プロポーザルにより設計者選定</li> <li>・3回、環境教育検討会の実施</li> <li>・夏、冬の事前環境調査の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築確認申請を行い、実施設計の完了</li> <li>・工事請負業者の入札</li> <li>・一中から一小への引越し</li> <li>・工事完成</li> <li>・一小から一中への引越し</li> <li>・6回、環境教育検討会の実施</li> <li>・成果物の作成</li> </ul>
実績	事務局を選定し、選定した事務局により、エコ改修検討会及び環境教育検討会の実施体制を確立した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月14日、4月26日、5月19日、6月15日、7月5日、7月21日(6回、エコ改修検討会の実施)</li> <li>・8月、プロポーザルにより設計者選定(風設計室)</li> <li>・9月30日、10月13日、12月1日(3回、環境教育検討会の実施)</li> <li>・夏、冬の事前環境調査の実施</li> </ul>	

活動指標の説明(事業として何を実施したか)

環境建築を担う技術者育成のためのプログラムという位置付けとして、4月から7月まで、エコ改修の様々な工事に関する分野について、全6回の学校エコ改修検討会を実施し、検討会に参加した者の中からプロポーザル方式により、設計者を選定しました。さらに、9月から3回の環境教育検討会を実施しました。なお、これに関連し、平成22年度は、2年生を対象として、総合的な学習の時間を活用し、「すまいと環境」というテーマで、大学の先生等を講師として招き、新たな環境教育プログラムを試みました。

(3) 成果指標	平成21年度	平成22年度	平成23年度
指標の目標	環境建築研究会及び環境教育研究会の設置並びに学校における環境調査の実施。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6回、エコ改修検討会の実施</li> <li>・プロポーザルにより設計者選定</li> <li>・3回、環境教育検討会の実施</li> <li>・夏、冬の事前環境調査の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築確認申請を行い、実施設計の完了</li> <li>・工事請負業者の入札</li> <li>・一中から一小への引越し</li> <li>・工事完成</li> <li>・一小から一中への引越し</li> <li>・6回、環境教育検討会の実施</li> <li>・成果物の作成</li> </ul>
指標の実績	同研究会実施体制づくり並びに同環境調査の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月14日、4月26日、5月19日、6月15日、7月5日、7月21日(6回、エコ改修検討会の実施)</li> <li>・8月、プロポーザルにより設計者選定(風設計室)</li> <li>・9月30日、10月13日、12月1日(3回、環境教育検討会の実施)</li> <li>・夏、冬の事前環境調査の実施</li> </ul>	
<p>成果指標の説明(活動の結果目標に照らしてどのような効果があったか)</p> <p>エコ改修検討会において、環境工学、構造、学校建築などの各専門家を講師として招聘し、水俣の環境を活かした快適な学校を共に考え、水俣第一中学校の相応したエコ改修の在り方を構想することができ、プロポーザルにより選定した設計案についても、学校エコ改修検討会を活かしたものとなった。さらに、今回、エコ改修検討会に付随して、総合学習の時間を活用して行った「すまいと環境」の新たな環境教育プログラムについても、平成23年度までに作成する汎用性のある環境教育プログラム・教材づくりに活用していきます。</p>			

### 3、状況評価(妥当性・達成度・効率性)

(1) 活動指標に対する達成度	点数	理由:(この事業は当初の目標や指標を達成できたか)
<input type="checkbox"/> 達成度100%以上	3	6回のエコ改修検討会を実施し、プロポーザルを行い、成果を活かした設計による提案をされた設計者を選定することができ、実施設計を行うことができたため。さらに、環境教育検討会においても目標の3回の実施を行うことができたため。ただし、増築を行うことになったことに伴い、追加設計及び建築確認申請が必要になったことに伴い、繰り越すこととしたため
<input checked="" type="checkbox"/> 達成度60~99%	2	
<input type="checkbox"/> 達成度30~59%	1	
<input type="checkbox"/> 達成度29%以下	0	
(2) 成果指標に対する達成度	点数	理由:(この事業は目的に沿って成果をあげられたか)
<input checked="" type="checkbox"/> 大変成果有	3	6回のエコ改修検討会を実施し、プロポーザルを行い、成果を活かした設計による提案をされた設計者を選定することができ、実施設計を行うことができたため。さらに、環境教育検討会においても目標の3回の実施を行うことができたため。
<input type="checkbox"/> 概ね成果有	2	
<input type="checkbox"/> ほぼ成果無	0	
<input type="checkbox"/> 成果指標無	-1	
(3) 効率性	点数	理由:(活動量を下げずに経費削減、事業期間短縮、質・量の向上ができたか)
<input type="checkbox"/> 大変効率よくできた	3	基本設計途中で、先進地視察研修に行ったりする中で、本市の設計内容も幾度となく行なった。しかしながら、学校、事務局、設計者ともに、納得のいく設計内容にすることができた。
<input checked="" type="checkbox"/> 概ね効率よくできた	2	
<input type="checkbox"/> 効率性が低かった	1	
<input type="checkbox"/> 全く効率性に欠けていた	0	

総合評価	7点		
A かなりの成果を上げ、さらなる向上を目指す重要政策 (9点~7点)		評価	A
B 一応の成果を上げているが、維持していく上で改善を必要とする重要政策(6点~4点)			
C 早急な見直しが必要な重要政策 (3点~2点)			
D 当初の目的を達成していないなど、事業そのものの継続が困難な重要政策 (1点~-1点)			

### 4、今後の事業の方向性(課題と見直し)

(1) 課題	今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 維持向	<input type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 見直し	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 終了
エコ改修工事を実施することにあたり、水俣第一中学校は仮設校舎として、2学期の間、水俣第一小学校を使用する。このため、スムーズに引越しを行い、スムーズに工事に着手できるようにしなければならない。また、工期についても2学期中には終わられるよう進捗状況を確認していかなければならないと考えています。						
(2) 見直しの具体的内容	本年度から、一小、一中、湯出中、三中に対し説明会を実施し、平成23年3月中には関係する小中学校の保護者宛、一小から一中への一時移転について文書で通知する。そして、できるだけ引越しがスムーズに進むよう、計画を図っていく。さらに、第一小学校の児童にとっても引越しのメリットがあるよう小中学生の交流事業等を実施し、小学生が楽しかったと思えるよう、今後、検討していきたい。工事の進捗状況については、エコ改修工事監理者と一緒に、綿密にチェックしていきたいと考えています。					

### 5、重要政策に対する意見

(1) 政策評価委員	環境モデル都市にふさわしい施設整備を行うとともに、教師の環境教育プログラム作成スキルアップ、生徒の環境意識向上を図っていただきたい。環境建築を担う技術者の育成など所期の目的を達成できるように進めていただきたい。
(2) 市民監査委員	本事業推進のため、エコ改修検討会、環境教育検討会、先進地視察研修等が着実に実施されている。今後のエコ改修設計や施行が楽しみです。改修後の見学会を開催していただきたい。
(3) 教育委員	単に改修を行うだけでなく、環境モデル都市にふさわしい取り組みをしている。教育の中に実践でき身につく環境教育となるよう望む。今後、多くの見学者が予想されるため、記録の作成を十分に行うとともに、途中での進捗状況の公開も必要であると思う。

様式1:重要政策実施状況評価表

番号	IV-4	重点戦略名	郷土の新しい公共を担う人を育てるまち	重要政策名	日本一の読書のまちづくり
事業期間	平成21年度から平成23年度			担当課	生涯学習課

1、重要政策の目的・目標

事業の概要(目的、内容)

平成20年度策定の日本一の読書のまちづくり推進計画に基づき、「すべての市民が読書に親しみ、人生をより深く生きる生命(いのち)安らぐまち」を目指して、家庭や学校、地域での読書活動を振興している。その取組みの一つとして、平成21年度で環境問題を後世に読み伝えていくみなまた環境絵本大賞原文募集事業を実施し、平成22年度で大賞作品に作画して絵本を出版するという事業を展開していく。さらに、読書活動が次世代の子ども達へ未来を託す基盤づくりに大いに役立つものとして、また、高齢者の生涯学習の一環として、読書活動を通して、市民が心豊かに暮らせるまちづくりを推進していく。

2、投入経費と指標

(1) 投入経費 (単位:千円)	平成21年度	平成22年度	平成23年度
事業費:A(内市費)	5,956 (5956)	3,494 (3,494)	5,737 (5,737)
換算人件費:B	12,960	8,624	5,700
投入経費:A+B	18,916	12,118	11,437
(参考)間接事業費	0	0	0

※換算人件費算出は事業に従事した延べ日数に日当(27千円)を乗じて算出すること。

※(参考)間接事業費は、市予算・国県補助事業費以外で、事業を行うにあたり投入された経費を記入すること。

(2) 活動指標(実行手段)

	平成21年度	平成22年度	平成23年度
目標	(仮称)みなまた環境絵本大賞事業の実施・水俣市読書のまちづくり推進計画の実施	・みなまた環境絵本大賞事業の推進 ・水俣市読書のまちづくり推進計画の具体的取組の実施	・図書館情報システムの導入 ・みなまた環境絵本大賞(募集)事業 ・コンビニへのブックポストの設置 ・「みなよむ号」の活動推進 ぐるりんばブックスタート事業 ・読書のまちづくり推進計画の具体的取組み実施
実績	・みなまた環境絵本大賞実施(作品決定) ・学校図書館ボランティア事業の実施 ・ブックスタート事業・まちかど図書館 ・動くえほん館「みなよむ号」の活動	・みなまた環境絵本大賞「ひよこりじぞう」3月出版。 ・ぐるりんばブックスタート事業 ・まちかど図書コーナーの設置 ・動く絵本館みなよむ号活動推進 ・親子20分間「家読」の推進	

活動指標の説明(事業として何を実施したか)

・平成22年度 みなまた環境絵本大賞事業絵本出版  
4月出版社決定(西日本新聞社)、5月作画者決定(川崎のぼる氏)、7月~10月作画、11月~2月校正、3月出版  
・ぐるりんばブックスタート事業(4ヶ月、6ヶ月乳児健診時に絵本の読み聞かせを実施)4ヶ月乳児に絵本を1冊贈呈(22年度実績:198冊)  
・まちかど図書コーナーの設置(22年度実績:2ヶ所 計5ヶ所)  
・動く絵本館みなよむ号の活動推進(22年度実績:市内イベント会場、幼稚園、小学校他 約2,000人)  
・親子20分間「家読」の推進・啓発(市内小学校を中心に「家読」のすすめについてチラシ等により啓発)

(3) 成果指標

	平成21年度	平成22年度	平成23年度
指標の目標 水俣市読書のまちづくりとその実施	読書のまちづくり環境整備	日本一の読書のまちづくり推進計画の具体的取組の実施	日本一の読書のまちづくり推進計画に基づく事業の実施
指標の実績 水俣市読書のまちづくりで具体的にやったこと	・みなまた環境絵本大賞事業 ・学校図書館ボランティア配置事業 ・動くえほん館みなよむ号の活動	・みなまた環境絵本出版 ・ぐるりんばブックスタート事業推進 ・まちかど図書コーナーの設置 ・動く絵本館みなよむ号の活動推進 ・親子20分間「家読」の推進	

成果指標の説明(活動の結果目標に照らしてどのような効果があったか)

日本一の読書のまちづくり推進計画に添った事業の展開を図り、市民の読書活動の推進に努めた。特に、みなまた環境絵本出版については、2ヶ年事業として、平成21年度から実施し、全国公募の大賞作品にプロの作家による作画を付け、全国へ「環境問題」について考える絵本として3月に出版、書店販売となった。(出版:西日本新聞社)  
また、市民や子どもたちの読書環境を推進するため、まちかど図書コーナー、ブックスタート事業、絵本館みなよむ号の活動を積極的に展開し、市内各小学校へ「家読」のためのチラシ等を配布、啓発を実施した。

### 3、状況評価(妥当性・達成度・効率性)

(1) 活動指標に対する達成度	点数	理由:(この事業は当初の目標や指標を達成できたか)
<input checked="" type="checkbox"/> 達成度100%以上	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みなまた環境絵本大賞事業は、平成21年度で募集し大賞作品が決定した。翌22年度では、プロの作者(川崎のぼる氏)、出版社(西日本新聞社)が決定し、3月に出版した。2カ年事業ではあったが、水俣から環境問題を読み伝える絵本として発信できることとなった。</li> <li>・ブックスタート事業は、事業開始から3年目となり、4ヵ月乳児へ絵本を1冊贈呈し、読み聞かせ(4ヵ月、6ヵ月乳児)を実施している。</li> <li>・動く絵本館みな読む号は、イベントや保育園・幼稚園、小学校等で利用されており活躍の場が広がっている。(22年度:約2000人利用)</li> <li>・まちかど図書コーナーの設置は、これまで市内3ヶ所であったが、5ヶ所に増設して、気軽に、身近に本が読める環境づくりを実施した。</li> </ul>
<input type="checkbox"/> 達成度60~99%	2	
<input type="checkbox"/> 達成度30~59%	1	
<input type="checkbox"/> 達成度29%以下	0	
(2) 成果指標に対する達成度	点数	理由:(この事業は目的に沿って成果をあげられたか)
<input checked="" type="checkbox"/> 大変成果有	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成20年度で策定した日本一の読書のまちづくり推進計画に基づき事業展開を図っているが、図書館を核とした読書環境づくりに重点をおき、事業を実施している。中でも、環境絵本出版は、書店で販売され、水俣から環境問題を広く発信する機会となった。さらに、ブックスタート事業の継続、まちかど図書コーナーの設置、みなよむ号の積極的な活用にも努めたことで、読書活動の推進を図った。</li> </ul>
<input type="checkbox"/> 概ね成果有	2	
<input type="checkbox"/> ほぼ成果無	0	
<input type="checkbox"/> 成果指標無	-1	
(3) 効率性	点数	理由:(活動量を下げずに経費削減、事業期間短縮、質・量の向上ができたか)
<input type="checkbox"/> 大変効率よくできた	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本一の読書のまちづくり推進計画に基づき、具体的な取り組みを実施しているが、事業実施のためのスケジュール管理や人員体制など見直ししながら実施したことから概ね効率よく展開できたものと思われる。</li> </ul>
<input checked="" type="checkbox"/> 概ね効率よくできた	2	
<input type="checkbox"/> 効率性が低かった	1	
<input type="checkbox"/> 全く効率性に欠けていた	0	

総合評価	8点		
A かなりの成果を上げ、さらなる向上を目指す重要政策 (9点~7点)		評価	A
B 一応の成果を上げているが、維持していく上で改善を必要とする重要政策(6点~4点)			
C 早急な見直しが必要な重要政策 (3点~2点)			
D 当初の目的を達成していないなど、事業そのものの継続が困難な重要政策 (1点~-1点)			

### 4、今後の事業の方向性(課題と見直し)

(1) 課題	今後の方向性	<input checked="" type="radio"/> 維持	<input type="radio"/> 改善	<input type="radio"/> 見直し	<input type="radio"/> 休止	<input type="radio"/> 終了
<p>今回、第1作目となったみなまた環境絵本大賞事業は、環境をテーマとした絵本出版により、次世代の子どもたちへのメッセージとして読み聞かせに活用してもらうための絵本である。今後も引き続き事業を実施し、発信し続けることで、水俣ならではの事業として定着できるものと思われるが、その事業展開は何年間、どのように進めるか課題である。また、ぐるりんぱブックスタート事業やまちかど図書コーナー、ブックポストの設置など策定された計画の具体的な取り組みと整合性を図りながら実施していく必要がある。</p>						
(2) 見直しの具体的内容	<p>日本一の読書のまちづくり事業の中で、みなまた環境絵本大賞事業は、市制施行60周年、図書館開館80周年と節目の年に重なったこともあり実施できたが、次回からは幅広く市民に理解され、市民が参加しやすい事業として、内容や財源等を改めて見直ししていく必要がある。また、ぐるりんぱブックスタート事業の次の段階として、セカンドブックへの取り組みやまちかど図書コーナーの更なる設置個所の増加、動く絵本館みなよむ号の利用についても図書館館外活動として位置付けて実施できるよう取り組んでいく。</p>					

### 5、重要政策に対する意見

(1) 政策評価委員	<p>数値による成果が見えにくいを着実に事業が進められている。今後は、項目ごとに貸出し冊数や利用者数など数値の成果指標を設定し、活動していただきたい。</p>
(2) 市民監査委員	<p>みなまた環境絵本大賞事業による絵本出版は素晴らしいものであった。ぐるりんぱブックスタート事業、まちかど図書コーナーの設置など数多く取り組まれ、日本一の読書のまちづくりの推進が積極的に行われています。</p>
(3) 教育委員	<p>図書館の雰囲気親しみやすいものになってきており、環境絵本大賞やみなよむ号など積極的に活動がなされている。みなよむ号の推進活動を期待する。また、利用率でも日本一を目指してほしい。今後は、図書貸出数等を調査・分析し、実態や取組を広報することによって、水俣を日本一の読書のまちにするという気運が市民全体に高まることを期待する。</p>

様式1:重要政策実施状況評価表

番号			
特別個別名	学力向上対策事業		
事業期間	平成20年度から平成22年度	担当課	総務課

1、重要政策の目的・目標

事業の概要(目的、内容)
水俣市の児童生徒の学力充実・向上は、保護者も市民も指導する教師も願うところである。水俣市学校教育努力目標像を「学びの心をもつ子ども、育ての心をもつ教師、はずむ心のある学校」と設定し、その実現に向けて、各学校では、学校や地域の実態に即して教育目標を定め、適切な教育計画のもと、具体的な実践をとおして、教育目標達成の実現に努めるものである。児童生徒の学力充実・向上に向けて、教師の資質の向上や授業力の向上、地域に開かれた学校運営を目指し、様々な角度から目的・目標に迫れるよう事業を推進する。

2、投入経費と指標

(1) 投入経費 (単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度
事業費 : A (内市費)	2,783 (2,783)	2,680 (2,680)	3,650 (3,650)
換算人件費 : B	216	216	216
投入経費 : A + B	2,999	2,896	3,866
(参考)間接事業費	0	0	0

※換算人件費算出は事業に従事した延べ日数に日当(27千円)を乗じて算出すること。

※(参考)間接事業費は、市予算・国県補助事業費以外で、事業を行うにあたり投入された経費を記入すること。

(2) 活動指標(実行手段)	平成20年度	平成21年度	平成22年度
目標	学力向上宣言の具体的実践とその評価	学力向上宣言の具体的実践とその評価、5年間の総括と次年度への方向性	学力向上宣言を継続し、具体的実践とその評価
実績	学力向上プロジェクト会議・資質指導力向上対策委員会の実施、市指定学力向上研究成果発表会(二中)開催、第4回みなまた教育フォーラムの実施	学力向上プロジェクト会議・資質指導力向上対策委員会の実施、市指定学力向上研究成果発表会(水俣一小)開催、第5回みなまた教育フォーラムの実施	学力向上プロジェクト会議・資質指導力向上対策委員会の実施、市指定学力向上研究成果発表会(袋中)開催、第6回みなまた教育フォーラムの実施
活動指標の説明(事業として何を実施したか)			
①各学校の学力向上対策(「水俣市学力向上宣言」の具体的実践)・・・「熊本型授業の推進」と「ゆうチャレンジ」の活用等 ②学力向上プロジェクト会議・資質指導力向上対策委員会の開催(年7回開催) ③小学校放課後補充教室の実施(退職校長等を指導者とし、全小学校で年間40時間実施) ④指定研究指定校による研究推進(袋中学校の発表・水俣第二小学校の取組) ⑤2月を水俣教育月間とし、各学校での学習成果発表会、教育委員会主催で「みなまた教育フォーラム」の開催 ⑥研究紀要「みなまたの教育」の刊行(3月完成予定)			

(3) 成果指標	平成20年度	平成21年度	平成22年度
指標の目標	①会議・委員会の開催 ②各学校での学習成果発表会 ③みなまた教育フォーラムの開催 ④学力向上宣言具体的実践	①会議・委員会の開催 ②各学校での学習成果発表会 ③みなまた教育フォーラムの開催 ④学力向上宣言具体的実践	①会議・委員会の開催 ②各学校での学習成果発表会 ③みなまた教育フォーラムの開催 ④学力向上宣言の見直し
指標の実績	①月1回会議・委員会の開催 ②2月に全小中学校で開催 ③2月25日に教育フォーラム開催(市文化会館) ④2月の教育フォーラムで取組状況報告	①年7回の会議・委員会の開催 ②2月に全小中学校で開催 ③2月24日に教育フォーラム開催(市公民館) ④2月の教育フォーラムでこれまでの取組状況報告	①年7回の会議・委員会の開催 ②2月に全小中学校で開催 ③2月24日に教育フォーラム開催(市公民館) ④2月の教育フォーラムでこれまでの取組状況報告
成果指標の説明(活動の結果目標に照らしてどのような効果があったか)			
①2月を中心に、各学校の学力向上成果発表会を行うとともに、第6回みなまた教育フォーラムを開催し、改訂した学力向上宣言の提言を行った。また、市内教職員の優れた実践内容を各分科会で報告・協議を行った。さらには、全体会で、基礎学力向上システムに取り組んでいる袋小学校の実践発表を実施した。これまで重点的に取り組んできた県学力調査(ゆうチャレンジ)を意識した取組がどの学校でも見られ、学力向上に対する教職員の意識の向上が見られてきた。 ②11月30日に2年目の指定校(袋中学校)の研究発表会を行った。中学校は指定休業日とし、全教職員が参加した。熊本型授業の向上を目指す研究内容について、共有化が図られた。11月19日には、市教育委員会指定外国語活動研究指定校(葛渡小)の発表会を開催し、小学校外国語活動の進め方について具体的な研究内容の報告があった。 ③小学校で行う放課後補充教室も、学校の実態に即し、工夫改善をしながら、基礎基本の確実な定着を図った。指導者と学校側との協力体制、指導体制も充実して、補充教室指導員も快く指導に当たってもらった。			

### 3、状況評価(達成度・効率性)

(1) 活動指標に対する達成度	点数	理由:(この事業は当初の目標や指標を達成できたか)
<input type="checkbox"/> 達成度100%以上	3	すべての小中学校で、学力向上宣言に基づき一人一人の児童生徒に「確かな学力」の定着をめざして取組を行った。今年度は学力向上プロジェクトにおいて水俣市学力向上宣言の見直しを行い、思考力・判断力・表現力の向上を目指した。
<input checked="" type="checkbox"/> 達成度60～99%	2	
<input type="checkbox"/> 達成度30～59%	1	
<input type="checkbox"/> 達成度29%以下	0	
(2) 成果指標に対する達成度	点数	理由:(この事業は目的に沿って成果をあげられたか)
<input type="checkbox"/> 大変成果有	3	学力向上プロジェクトで計画した内容に従って取組を行ってきた。市研究指定校である袋中学校は、11月30日に研究発表を行い、公開授業において研究内容を公開できた。熊本県学力調査(ゆうチャレンジ)の結果では、県平均を上回る観点が中学校では多いものの、小学校では下回る観点が多く見られ、課題である。なお、標準学力検査(NRT)の結果は現在集計中である。
<input checked="" type="checkbox"/> 概ね成果有	2	
<input type="checkbox"/> ほぼ成果無	0	
<input type="checkbox"/> 成果指標無	-1	
(3) 効率性	点数	理由:(活動量を下げずに経費削減、事業期間短縮、質・量の向上ができたか)
<input type="checkbox"/> 大変効率よくできた	3	学力向上プロジェクトは6年目を迎え、児童生徒に確かな学力をつけようとする教職員の意識も高まってきている。今年度は芦北管内学力向上対策委員会の取組と関連して各学校の言語力の育成等についても取組を進めている。新たに提言した学力向上宣言に基づき、児童生徒の実態を把握するとともに、各学校の状況に応じた取組を進めることでさらに効果が上がると考える。
<input checked="" type="checkbox"/> 概ね効率よくできた	2	
<input type="checkbox"/> 効率性が低かった	1	
<input type="checkbox"/> 全く効率性に欠けていた	0	

総合評価	6点		
A かなりの成果を上げ、さらなる向上を目指す重要政策 (9点～7点)		評価	B
B 一応の成果を上げているが、維持していく上で改善を必要とする重要政策(6点～4点)			
C 早急な見直しが必要な重要政策 (3点～2点)			
D 当初の目的を達成していないなど、事業そのものの継続が困難な重要政策 (1点～-1点)			

### 4、今後の事業の方向性(課題と見直し)

(1) 課題	今後の方向性	維持向上	<b>改善</b>	見直し	休止	終了
<p>学力向上プロジェクトは6年目を迎え、これまでの継続した取組によって、水俣市の児童生徒の学力は高い水準で推移してきた。標準学力検査に加え、熊本県学力調査(ゆうチャレンジ)の向上も目指してきたが、中学校で良好な結果であるものの、小学校では県平均の定着率に達していない観点多く、さらなる改善が必要である。学力の向上は長いスパンで行うものであることを認識し、今後も取組を進めていく必要がある。</p>						
(2) 見直しの具体的内容	<p>平成23年度は水俣第二小中学校が研究発表を行うので、市内小学校を中心に研究の成果を普及する。学力向上プロジェクトは7年目を迎えるが、学力の向上は時間をかけてじっくりと行うことにより効果を発揮すると考えられるので、今後も継続したプロジェクトを実施予定である。なお、基礎学力の定着を図るNRTとともに、熊本県学力調査(ゆうチャレンジ)の定着率向上を目指した取組を今後も充実させていきたい。まずは小学校で定着率が低い理由を明らかにすることから始めたいと考えている。</p>					

### 5、重要政策に対する意見

(1) 市民監査委員	<p>小学校の外国語活動の研究がなされている。楽しく面白そうである。これからもがんばっていただきたい。小学校での放課後の補充授業は基礎基本の定着化になりすばらしいことだ。学力向上については、保護者・地域の人々の強い要望でもあるので、これからも充実させていってほしい。</p>
(2) 教育委員	<p>学校の実情を把握し、教職員の声を生かした取り組みがなされ、成果を発揮していると感じる。今後は地域の人材を活用し、放課後補充教室や長期休暇中の社会教育施設での講座など、学校教育外でも学べる機会を作るなど、よりいっそうの向上を計ってもらいたい。</p>

様式1:重要政策実施状況評価表

番号			
特別個別名	いじめ、虐待、不登校児童生徒対策		
事業期間	平成20年度から平成22年度	担当課	教育総務課

1、重要政策の目的・目標

事業の概要(目的、内容)

不登校、いじめ、虐待の問題を抱える本市の児童生徒の自立を支援するため、関係機関との連携を強化しながら課題解決に努める。そのために、適応指導水俣教室を中心とした取組を段階的に発展させ、関係機関のネットワークの構築を図りながら取組を進める。

2、投入経費と指標

(1) 投入経費 (単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度
事業費 :A (内市費)	2,550 ( )	2,550 ( )	2,550 ( )
換算人件費 :B	540	540	540
投入経費 :A + B	3,090	3,090	3,090
(参考)間接事業費			

※換算人件費算出は事業に従事した延べ日数に日当(27千円)を乗じて算出すること。

※(参考)間接事業費は、市予算・国県補助事業費以外で、事業を行うにあたり投入された経費を記入すること。

(2) 活動指標(実行手段)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度
目標	関係機関とのネットワークの構築と、いじめ、不登校、虐待の問題を抱える児童生徒への効果的な取組を行う。	関係機関とのネットワークのさらなる協力体制と、いじめ、不登校、虐待の問題を抱える児童生徒への効果的な取組を行う。	関係機関とのネットワークのさらなる協力体制と、いじめ、不登校、虐待の問題を抱える児童生徒への効果的な取組を行い、啓発を行う。
実績	関係機関のネットワークの構築を図り、それぞれの機関連携しながら様々な問題を抱える児童生徒の学校復帰を目指した。	関係機関のネットワークの構築を図り、それぞれの機関が連携しながら様々な問題を抱える児童生徒の学校復帰を目指した。	関係機関のネットワークの構築を図り、それぞれの機関が連携しながら様々な問題を抱える児童生徒の自立支援を目指した。

活動指標の説明(事業として何を実施したか)

「問題を抱える子ども等の自立支援事業」において、不登校対策部会、いじめ防止部会、虐待防止部会の3つの部会を設置した。まずはネットワークづくりを充実させ、適応指導水俣教室をネットワークの中心に据え、各学校や団体との情報の共有化を図るとともに、それぞれの部会の取組を充実させ、不登校児童生徒の減少と学校復帰、いじめ、虐待の発生の減少を目指し、取組の成果を広く公開した。

(3) 成果指標

	平成20年度	平成21年度	平成22年度
指標の目標 不登校児童生徒の学校復帰及びいじめ防止、虐待防止の効果的取組	①「問題を抱える子ども等の自立支援事業推進協議会」で3つの部会の設立②各部会の取組推進と情報交換③各部会の定例会の実施	①「問題を抱える子ども等の自立支援事業推進協議会」で3つの部会の設立②各部会の取組推進と情報交換③各部会の定例会の実施	①「問題を抱える子ども等の自立支援事業推進協議会」で3つの部会の設立②各部会の取組推進と情報交換③各部会の定例会の実施
指標の実績 不登校児童生徒の学校復帰及びいじめ防止、虐待防止の効果的取組	①「問題を抱える子ども等の自立支援事業推進協議会」で3つの部会の設立②各部会の取組推進と情報交換③各部会の定例会の実施(3回)	①「問題を抱える子ども等の自立支援事業推進協議会」で3つの部会の設立②各部会の取組推進と情報交換③各部会の定例会の実施(3回)	①「問題を抱える子ども等の自立支援事業推進協議会」で3つの部会の設立②各部会の取組推進と情報交換③各部会の定例会の実施(4回)④自立支援フォーラムの実施

成果指標の説明(活動の結果目標に照らしてどのような効果があったか)

平成22年度の30日以上の不登校児童生徒数は、2月末現在で18人(小学校3人・中学校15人)であった。昨年度の同時期は22人であり、昨年度よりさらに少ない出現率で推移している。適応指導教室から学校復帰を果たした児童生徒は2名おり、取組が成果をあげつつある。いじめについては、指導力に優れた先生方による未然防止・早期発見のための研究を「水俣市自立支援フォーラム」で広く公開した。さらに、虐待に関しては小中学校の保護者にいじめの認識にかかるアンケートを実施し、分析した結果をもとに児童虐待防止の資料を作成・配布した。



### 3、状況評価(達成度・効率性)

(1) 活動指標に対する達成度	点数	理由:(この事業は当初の目標や指標を達成できたか)
<input type="checkbox"/> 達成度100%以上	3	適応指導水俣教室をネットワークセンターとし、不登校児童生徒のケース検討会議に参加したり、学校復帰を目指すプログラムを実施したり保護者との相談体制を構築するなど、取組を多面的に展開した。虐待防止部会も小学校PTAを対象にアンケートを実施し、啓発資料を作成するなど、積極的な取組を行った。
<input checked="" type="checkbox"/> 達成度60～99%	2	
<input type="checkbox"/> 達成度30～59%	1	
<input type="checkbox"/> 達成度29%以下	0	
(2) 成果指標に対する達成度	点数	理由:(この事業は目的に沿って成果をあげられたか)
<input type="checkbox"/> 大変成果有	3	適応指導水俣教室を中心とした取組については、継続した活動により、不登校児童生徒の出現率は昨年以上に低い数値で推移している。いじめアンケート結果では、「いじめられた」と回答した児童生徒数が昨年度より増加したことが課題であり、委員の研究の普及が必要である。
<input checked="" type="checkbox"/> 概ね成果有	2	
<input type="checkbox"/> ほぼ成果無	0	
<input type="checkbox"/> 成果指標無	-1	
(3) 効率性	点数	理由:(活動量を下げずに経費削減、事業期間短縮、質・量の向上ができたか)
<input checked="" type="checkbox"/> 大変効率よくできた	3	それぞれの部会が一堂に会して、協議や情報交換をする機会は4回であったが、少ない回数で水俣市自立支援フォーラムを開催し、これまでの研究の成果を公開することができた。
<input type="checkbox"/> 概ね効率よくできた	2	
<input type="checkbox"/> 効率性が低かった	1	
<input type="checkbox"/> 全く効率性に欠けていた	0	

総合評価	7点	評価	A
A かなりの成果を上げ、さらなる向上を目指す重要政策 (9点～7点)			
B 一応の成果を上げているが、維持していく上で改善を必要とする重要政策(6点～4点)			
C 早急な見直しが必要な重要政策 (3点～2点)			
D 当初の目的を達成していないなど、事業そのものの継続が困難な重要政策 (1点～-1点)			

### 4、今後の事業の方向性(課題と見直し)

(1) 課題	今後の方向性	維持向上	<b>改善</b>	見直し	休止	終了
不登校児童生徒の減少は、本市における課題の一つであり、今後もその解消に向けて取り組んでいく必要がある。不登校防止対策においては、これまでのネットワークを有効活用し、今後ともさらに保護者へのアプローチを行っていく必要がある。また、いじめ防止については今年度の研究成果を各学校に普及させることが重要である。						
(2) 見直しの具体的内容	不登校防止部会においては、保護者との相談活動や保護者連絡会を実施するなど、保護者との連携をさらに深めるとともに、引きこもり傾向にある児童生徒へのアプローチを考慮していく必要がある。また、いじめ防止部会には今年度の研究の成果を研修等を開催して普及する。虐待防止部会においては今年度作成した啓発資料をさらに活用し多方面への啓発を図るなどそれぞれの部会の取組を充実させながら、児童生徒の自立への支援を進めていく。					

### 5、重要政策に対する意見

(1) 市民監査委員会	不登校児童生徒の出現率の減少は、その防止策の成果が実っている証拠であろう。「いじめられた」とのかいとうが前年度より増加しているの、今後十分な指導を行ってほしい。
(2) 教育委員	不登校者数は減少しており、児童生徒は落ち着いてきている。携帯やネットによる水面下のいじめや、家庭が課題になっている事象が増えつつあるので、教育・福祉・医療機関等がそれぞれの特性を生かして課題解決を効率的に行える組織を作るなど、より強力な連携が望まれる。適応指導教室は今後ますます重要であろう。

様式1:重要政策実施状況評価表

番号			
特別個別名	環境教育(学校版環境ISO)の推進		
事業期間	平成20年度から平成22年度	担当課	教育総務課

1、重要政策の目的・目標

事業の概要(目的、内容)

本市は環境モデル都市に指定され、各学校における環境教育の推進にもさらに取り組んでいく必要がある。これまでも学校版環境ISOの取組は実施しており、今後はCO2削減も視野に入れた環境教育の充実を図っていく。

2、投入経費と指標

(1) 投入経費 (単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度
事業費:A(内市費)	( )	(0)	300 (300)
換算人件費:B		270	270
投入経費:A+B	0	270	570
(参考)間接事業費			

※換算人件費算出は事業に従事した延べ日数に日当(27千円)を乗じて算出すること。

※(参考)間接事業費は、市予算・国県補助事業費以外で、事業を行うにあたり投入された経費を記入すること。

(2) 活動指標(実行手段)	平成20年度	平成21年度	平成22年度
目標		各学校における学校版環境ISOの取組を充実させ、特にCo2削減の視点を入れた活動を実施する。	各学校における学校版環境ISOの取組等を充実させる。
実績		環境教育担当者研修会を実施し、各学校における環境教育及び学校版環境ISOの取組の充実を図った。また、二酸化炭素排出換算表を作成し、各学校で活用を行った。	水俣第一中学校エコフロー事業と連動した環境教育担当者研修会の実施及び研究指定校による研究推進を行った。

活動指標の説明(事業として何を実施したか)

水俣第一中学校エコフロー事業と関連して、市小中学校環境教育担当者会を3回実施した。第1回目は首都大学東京須永教授の講話「省エネルギー量の全体を学ぶ」を中心に実施した。第2回目は、同じく須永教諭による「エコスクール化の手法」「パンプとアクティブの考え方」の講義を行った。第3回目は、熊本大学大学院田中特任教授による「学校におけるCO2削減の取組」の講話を実施した。また、各学校においては、学校版環境ISOの充実を図った。さらには湯出小学校を環境教育研究指定校に指定して研究推進を行った。

(3) 成果指標	平成20年度	平成21年度	平成22年度
指標の目標		①年3回の市小中学校環境教育担当者会の実施 ②学校版環境ISOにCo2削減の視点の導入 ③全小中学校による環境ISOコンクールへの参加	①年3回の市小中学校環境教育担当者会の実施 ②環境教育研究指定校に湯出小を指定し、研究推進を実施 ③全小中学校による環境ISOコンクールへの参加
指標の実績		①年3回の市小中学校環境教育担当者会の実施 ②学校版環境ISOにCo2削減の視点の導入 ③全小中学校による環境ISOコンクールへの参加	①年3回の市小中学校環境教育担当者会の実施 ②環境教育研究指定校に湯出小を指定し、研究推進を実施 ③全小中学校による環境ISOコンクールへの参加

成果指標の説明(活動の結果目標に照らしてどのような効果があったか)

3回の研修の実施を行ったことで、各学校の環境教育担当者の資質の向上が図られ、学校版環境ISOの取組についても、ほとんどの学校が二酸化炭素排出削減に関連した取組を行った。学校版環境ISOコンクールにもすべての小中学校が参加し、湯出小学校及び水俣第三中学校が優秀賞を受賞した。

3、状況評価(達成度・効率性)			
(1) 活動指標に対する達成度	点数	理由:(この事業は当初の目標や指標を達成できたか)	
<input type="checkbox"/> 達成度100%以上	3	各校取組の内容は様々であるが、学校版環境ISOにおいても二酸化炭素削減の取組を踏まえて実施できた。本市小中学校における学校版環境ISOの取組の充実が湯出小学校及び水俣第三中学校が優秀賞を受賞したことからもうかがえる。また、水俣第三中学校は、環境美化教育最優秀校のリサイクル活動部門協会会長賞を受賞した。	
<input checked="" type="checkbox"/> 達成度60～99%	2		
<input type="checkbox"/> 達成度30～59%	1		
<input type="checkbox"/> 達成度29%以下	0		
(2) 成果指標に対する達成度	点数	理由:(この事業は目的に沿って成果をあげられたか)	
<input type="checkbox"/> 大変成果有	3	これまでの取組と大きな変更点はないが、各学校において学校版環境ISOの取組や中学校における地域に出かけての分別回収などの取組は充実しており、成果をあげてきている。湯出小学校の研究内容を市全小中学校の共通実践につなげる必要がある。	
<input checked="" type="checkbox"/> 概ね成果有	2		
<input type="checkbox"/> ほぼ成果無	0		
<input type="checkbox"/> 成果指標無	-1		
(3) 効率性	点数	理由:(活動量を下げずに経費削減、事業期間短縮、質・量の向上ができたか)	
<input type="checkbox"/> 大変効率よくできた	3	今年度は水俣第一中学校エコフロー事業と関連付けて環境教育担当委員会が開催できたため、効率的に事業がすすめられた。	
<input checked="" type="checkbox"/> 概ね効率よくできた	2		
<input type="checkbox"/> 効率性が低かった	1		
<input type="checkbox"/> 全く効率性に欠けていた	0		
総合評価	6点		
A かなりの成果を上げ、さらなる向上を目指す重要政策 (9点～7点)		評価	B
B 一応の成果を上げているが、維持していく上で改善を必要とする重要政策(6点～4点)			
C 早急な見直しが必要な重要政策 (3点～2点)			
D 当初の目的を達成していないなど、事業そのものの継続が困難な重要政策 (1点～-1点)			

4、今後の事業の方向性(課題と見直し)						
(1) 課題	今後の方向性	維持向上	<b>改善</b>	見直し	休止	終了
学校版環境ISOの取組については、これまで長い期間実施していることもありなかなか斬新なアイデアが浮かびにくいという意見も多い。湯出小学校の研究内容についても、全小中学校で共通実践できる内容かどうかを検討する必要がある。						
(2) 見直しの具体的内容	平成23年度も水俣第一中学校エコフロー事業と関連付けて研修会を実施していく必要があるので、研修内容が実践化へ結びつくような工夫を行う。また、湯出小学校は研究発表会を開催することになるが、研究内容についても適宜指導を行い、各学校の実践化へ結びつくようにしたい。					

5、重要政策に対する意見	
(1) 市民監査委員	各学校が学校版環境ISOコンクールに参加し、素晴らしい成果を發揮している。水俣市の環境モデル都市にふさわしい学校版ISOであるよう願っている。
(2) 教育委員	児童生徒の意識も高く、素晴らしい成果をそれぞれの学校で残している。市の現状や施策を話す学校への出前講座等を行うなどして、環境モデル都市づくりに貢献していることを意識して水俣に誇りを持つ児童生徒の育成に期待する。

様式1:重要政策実施状況評価表

番号			
特別個別名	人権教育推進事業		
事業期間	平成20年度から平成22年度	担当課	生涯学習課

1、重要政策の目的・目標

事業の概要(目的、内容)	本市においては、重大な人権課題として水俣病問題を抱えている。この課題に対しては、環境問題という側面も含め、様々な取り組みがなされているが、そのために問題が特化され、水俣病問題以外のあらゆる人権問題とのつながりを理解する妨げになっている傾向も見受けられる。あらゆる人権問題、差別の根底にあるものを理解することで、市民の人権意識の高揚を図り、そのことが人権問題としての水俣病の解決につながっていくものと考えられる。
--------------	---

2、投入経費と指標

(1) 投入経費 (単位:千円)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度
事業費 :A (内市費)	2,122 (1,002)	3,622 (2,471)	2,059 (1,191)
換算人件費 :B	5,076	5,076	5,076
投入経費 :A + B	7,198	8,698	7,135
(参考)間接事業費	0	0	0

※換算人件費算出は事業に従事した延べ日数に日当(27千円)を乗じて算出すること。  
 ※(参考)間接事業費は、市予算・国県補助事業費以外で、事業を行うにあたり投入された経費を記入すること。

(2) 活動指標(実行手段)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度
目標	地域人権教育指導員による人権指導、ヒューマンライツ・セミナーの実施	ヒューマンライツ・セミナーの実施 第38回熊本県人権教育研究大会水俣・芦北大会の開催	ヒューマンライツ・セミナーの実施、出前講座の実施
実績	地域人権教育指導員による人権指導、ヒューマンライツ・セミナーの実施	ヒューマンライツ・セミナーの実施 第38回熊本県人権教育研究大会水俣・芦北大会の開催	ヒューマンライツ・セミナーの実施、出前講座の実施

活動指標の説明(事業として何を実施したか)  
 ・中学生を対象としたヒューマンライツ・セミナーを7月から3月まで6回実施。4中学校10人の受講生が、いじめ、ハンセン病、部落差別などを現地学習をしながら学びを深めた。  
 ・地域人権指導員が、地域で開催されるまちかど健康塾、地域リビングなどを活用し人権講話を実施。また、人権講演会等の講師として県内数か所でも「水俣病と人権」について講話。

(3) 成果指標

	平成20年度	平成21年度	平成22年度
指標の目標	地域人権教育指導員による人権指導:5回、ヒューマンライツ・セミナーの実施(延べ参加者数:250人、延べ開催数:25回)	地域人権教育指導員による人権指導:5回、ヒューマンライツ・セミナーの実施(延べ参加者数:100人、延べ開催数:20回)	地域人権教育指導員による人権指導:5回、ヒューマンライツ・セミナーの実施(延べ参加者数:100人、延べ開催数:20回)
指標の実績	地域人権教育指導員による人権指導:6回、ヒューマンライツ・セミナーの実施(延べ参加者数:190人、延べ開催数:29回)	地域人権教育指導員による人権指導:13回、ヒューマンライツ・セミナーの実施(延べ参加者数:100人、延べ開催数:17回)	地域人権教育指導員による人権指導:22回、ヒューマンライツ・セミナーの実施(延べ参加者数:940人、延べ開催数:28回)

成果指標の説明(活動の結果目標に照らしてどのような効果があったか)  
 ・中学生を対象としたヒューマンライツ・セミナー受講生10人は、1年間の受講を終え、学校・学年を超えて学びを深めることにより、人権リーダーとしての自覚を持つに至った。また、現地学習では被差別部落の中学生との交流が始まり、現在に至っている。  
 ・地域人権指導員の人権講話が市内外の高齢者への人権啓発につながっている。また、市外の学校等での「水俣病と人権」の講話は、水俣病問題への理解を深めている。

3、状況評価(達成度・効率性)		
(1) 活動指標に対する達成度	点数	理由:(この事業は当初の目標や指標を達成できたか)
<input type="checkbox"/> 達成度100%以上	3	市民の人権意識の高揚を図り、人権問題、差別の根底にあるものを理解するための取り組みを行った。人権への正しい理解の輪が広がるための取り組みを継続していただくことで、真の意味での人権問題の解決につながっていく。
<input checked="" type="checkbox"/> 達成度60～99%	2	
<input type="checkbox"/> 達成度30～59%	1	
<input type="checkbox"/> 達成度29%以下	0	
(2) 成果指標に対する達成度	点数	理由:(この事業は目的に沿って成果をあげられたか)
<input checked="" type="checkbox"/> 大変成果有	3	ヒューマンライツセミナー、人権教育指導員による市内外での出前講座など積極的に人権啓発を図っている。
<input type="checkbox"/> 概ね成果有	2	
<input type="checkbox"/> ほぼ成果無	0	
<input type="checkbox"/> 成果指標無	-1	
(3) 効率性	点数	理由:(活動量を下げずに経費削減、事業期間短縮、質・量の向上ができたか)
<input checked="" type="checkbox"/> 大変効率よくできた	3	少ない人員で取り組んでいるが、質・量の向上も図られ、活動量も増加している。
<input type="checkbox"/> 概ね効率よくできた	2	
<input type="checkbox"/> 効率性が低かった	1	
<input type="checkbox"/> 全く効率性に欠けていた	0	
総合評価	8点	
A かなりの成果を上げ、さらなる向上を目指す重要政策 (9点～7点)		評価 <b>A</b>
B 一応の成果を上げているが、維持していく上で改善を必要とする重要政策(6点～4点)		
C 早急な見直しが必要な重要政策 (3点～2点)		
D 当初の目的を達成していないなど、事業そのものの継続が困難な重要政策 (1点～-1点)		

4、今後の事業の方向性(課題と見直し)	
(1) 課題	今後の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 維持向 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終了
中学生を対象としたヒューマンライツ・セミナー、地域の高齢者等を対象とした出前講座に主力を置いているため、それ以外の年代、特に子育て世代への人権啓発が手薄となっている。	
(2) 見直しの具体的内容	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒューマンライツセミナーについては、各中学校から最低1人の参加者を募り、全中学校で人権リーダーの養成を図る。啓発を行う</li> <li>・あらゆる機会を通じた人権啓発の推進(水俣・芦北地区人権教育研究大会等)</li> </ul>	

5、重要政策に対する意見	
(1) 市民監査委員会	ヒューマンライツセミナーや出前講座を通して、人権教育推進事業が意欲的に行われている。今後なおいっそうの人権啓発の推進を望みたい。
(2) 教育委員	地域人権指導員がよく活躍されている。さらに市民の人権意識を高揚し、人権文化が根付くよう、いろいろなところでの啓発等が行われることを期待する。

様式1:重要政策実施状況評価表

番号			
特別個別名	文化会館自主文化事業		
事業期間	平成20年度から平成22年度	担当課	生涯学習課

1、重要政策の目的・目標

事業の概要(目的、内容)

目的:生の優れた舞台芸術等を鑑賞する機会を低料金で提供し、市民の教養を高め、文化向上を図る。  
 内容:文化会館における公演の実施  
 芸術劇場…児童・生徒対象。小学生向けと中学生向けを隔年で開催する。  
 一般公演…音楽、演劇、落語、伝統芸能、舞踊その他様々な舞台芸術の中から、ジャンルに偏りがないように選定、1~2本の上演を行う。  
 単なる一方的な鑑賞にとどまらず、プロに学んだりジョイントコンサートを行ったりするなど、住民参加型の催しも積極的に取り入れていく。

2、投入経費と指標

(1) 投入経費 (単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度
事業費 :A (内市費)	7,023 (7023)	4,106 (4,106)	5,536 (5,536)
換算人件費 :B	3,402	1,485	3,294
投入経費 :A + B	10,425	5,591	8,830
(参考)間接事業費	0	0	2,200

※換算人件費算出は事業に従事した延べ日数に日当(27千円)を乗じて算出すること。

※(参考)間接事業費は、市予算・国県補助事業費以外で、事業を行うにあたり投入された経費を記入すること。

(2) 活動指標(実行手段)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度
目標	公演3本の実施	公演2本の実施	公演2本の実施
実績	小学校芸術劇場(演劇)・劇団四季・コーラス公演	中学校芸術劇場(ミュージカル)・新垣勉(テノール歌手)公演	小学校芸術劇場(ミュージカル)・劇団わらび座ミュージカル公演

活動指標の説明(事業として何を実施したか)

市内の全小学生(約1258人)を対象に、劇団ショーマンシップ(福岡市)の「ないた赤おに」を上演した。浜田廣介の原作を忠実に表現した、純粋な感動を伝える内容で、観劇を通して、友達の大切さについて考えてもらう機会となった。  
 一般公演は、実績も実力も全国トップクラスの劇団「わらび座」(秋田県)のミュージカル「アトム」を実施。318人が観劇した。開催にあたっては、財団法人地域創造の助成事業を利用した人間とロボット間の愛や対立を超えて芽生えるものは何かを、見事な演技とダンス・歌で表現し、観衆を魅了した。終演後のバックステージツアーには約80人が参加、熱心に解説を聞いていた。

(3) 成果指標

	平成20年度	平成21年度	平成22年度
指標の目標			
一般公演の目標集客率	一般公演2本 80%	一般公演1本 70%	一般公演1本 65%
指標の実績			
一般公演の集客率(集客率:文化会館座席数に対する入場者数)	61.3%	49.0%	34.8%

成果指標の説明(活動の結果目標に照らしてどのような効果があったか)

これまでの反省をふまえ、企業まわりや各種団体への依頼など、広報活動に力を入れたにも関わらず、チケット販売数が伸びなかった。作品イメージへの先入観等が作用し、作品への興味と理解をなかなか得られなかった。しかし、満場の惜しみない拍手やアンケートから、観客には大きな感動を与えられたと判断できた。  
 有名な演者による公演は、公演委託料も高い。好評だからといって同じジャンルのものばかり開催するわけにもいかない。しかし、いかに優れていても、知名度が低ければ集客が難しい。作品の魅力をいかに伝え、興味をひき、実際に足を運んでもらうかを考えることが大きな課題となった。  
 なお、公演は他の自治体と連携して開催することで助成金を受けられた。他館と情報交換して進めたことは担当者にも大きな励みとなった。また、ワークショップ(約30人の参加。わらび座の俳優から正調ソーラン節を習う)の開催やバックステージツアー(公演終了後、約80人が参加。舞台セット等の説明、俳優への質問コーナー)など、住民参加型の企画を実施できた。非常に好評だったため、今後も住民参加型を積極的に取り入れていきたい。

### 3、状況評価(達成度・効率性)

(1) 活動指標に対する達成度	点数	理由:(この事業は当初の目標や指標を達成できたか)
<input type="checkbox"/> 達成度100%以上	3	一般向け公演については、計画に沿って実施し、全国的に評価されている優れた作品を低料金で鑑賞する機会を提供することができた。芸術劇場は、市内のすべての児童らに舞台を鑑賞する機会を提供することができた。
<input checked="" type="checkbox"/> 達成度60～99%	2	
<input type="checkbox"/> 達成度30～59%	1	
<input type="checkbox"/> 達成度29%以下	0	
(2) 成果指標に対する達成度	点数	理由:(この事業は目的に沿って成果をあげられたか)
<input type="checkbox"/> 大変成果有	3	集客率は目標値に届かなかったが、優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供し、観客それぞれに感動を味わってもらえた点では、成果を得たと判断できる。アンケート結果も好評だった。
<input checked="" type="checkbox"/> 概ね成果有	2	
<input type="checkbox"/> ほぼ成果無	0	
<input type="checkbox"/> 成果指標無	-1	
(3) 効率性	点数	理由:(活動量を下げずに経費削減、事業期間短縮、質・量の向上ができたか)
<input type="checkbox"/> 大変効率よくできた	3	最小限の人数で、準備作業に取り組むことができ、当日も滞りなく公演を実施することができた。
<input checked="" type="checkbox"/> 概ね効率よくできた	2	
<input type="checkbox"/> 効率性が低かった	1	
<input type="checkbox"/> 全く効率性に欠けていた	0	

総合評価	6点	評価	B
A かなりの成果を上げ、さらなる向上を目指す重要政策 (9点～7点)			
B 一応の成果を上げているが、維持していく上で改善を必要とする重要政策(6点～4点)			
C 早急な見直しが必要な重要政策 (3点～2点)			
D 当初の目的を達成していないなど、事業そのものの継続が困難な重要政策 (1点～-1点)			

### 4、今後の事業の方向性(課題と見直し)

(1) 課題	今後の方向性	維持向上	<b>改善</b>	見直し	休止	終了
<p>近年、900以上の客席を埋めるのはかなり困難になってきている。他自治体の例に照らして、人口2万人台の自治体には、文化会館の規模は大きい方だ。事業の評価を集客率のみに設定することが妥当かどうか、再検討が必要と思われる。</p> <p>また、これまでの反省を踏まえて積極的に広報に回ったにも関わらず、集客率が低迷した。優れた作品だとしても、内容がわかりにくい、タイトルだけでは興味をひかないという意見も住民からいただいた。会場に足を運んでもらうための工夫を凝らすことが必要。安全策としてかつて好評だったものばかりを開催すると偏りが生じ、文化の普及にはならない。知名度のあるものは公演料が高く、予算確保が困難である。</p>						
(2) 見直しの具体的内容	<p>現状を踏まえ、集客率の見直しを行う。集客率だけではなく「満足度」をあげることに努める。アンケートを実施し、同時に、その回収率をあげる工夫も施す。</p> <p>催しの内容がよくわかるような広報、興味を引く、効果的な広報の方法を考える。</p> <p>一方的な鑑賞型のみならず、住民が参加できるような、参加型・育成型も取り入れていく。</p>					

### 5、重要政策に対する意見

(1) 市民監査委員	小学生対象の芸術劇場「泣いた赤おに」は感動できる場面もあり、友達の大切さを考える良い機会になった。一般公演のミュージカル「アトム」は見事な演技や音楽ではあったが、集客率(34.8%)が低い。今後は集客率を高める策について検討していただきたい。
(2) 教育委員	開館が多いほど、市民に親しまれ、文化意識も高まる。シリーズもの、市民参加型等、市民の関心を高めたい。また、社会、経済等時流に応じた講演会も必要。小中学校芸術劇場については、学校の意見等を聞く以外に、社会教育委員等の意見を聞くのも一考。満足度の向上に努めてほしい。なお、施設改修の際は客席数も検討してほしい。

様式1:重要政策実施状況評価表

番号			
特別個別名	公民館自主事業		
事業期間	平成20年度から平成22年度	担当課	生涯学習課 公民館

1、重要政策の目的・目標

事業の概要(目的、内容)

公民館は、多様な学習機会や集会の場を提供し、地域における住民の学習需要に総合的に応えている。  
 また、地域社会の形成や地域文化の振興にも貢献し、住民の日常生活に最も身近な生涯学習のための施設の役割も果たしてきている。  
 今後も生涯学習の充実のため、公民館が中核的な果たしていくことが求められている。

2、投入経費と指標

(1) 投入経費 (単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度
事業費 :A (内市費)	961 (961)	961 (961)	1,201 (1201)
換算人件費:B	405	540	540
投入経費 :A + B	1,366	1,501	1,741
(参考)間接事業費	569	596	642

※換算人件費算出は事業に従事した延べ日数に日当(27千円)を乗じて算出すること。

※(参考)間接事業費は、市予算・国県補助事業費以外で、事業を行うにあたり投入された経費を記入すること。

(2) 活動指標(実行手段)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度
目標	市民教室 16回(月2回) 高齢者教室 10回(1回)	市民教室 16回(月2回) 高齢者教室 10回(月1回)	市民教室 14回(月2回) 高齢者教室 10回(月2回)
実績	市民教室 16回(月2回) 高齢者教室 10回(月1回)	市民教室 16回(月2回) 高齢者教室 10回(月1回)	市民教室 14回(月2回) 高齢者教室 10回(月2回)

活動指標の説明(事業として何を実施したか)

★市民教室:料理・書道・パッチワーク・絵染め・健康ダンス・フラダンス・健康太極拳・ペン画・3B体操・初級社交ダンス・絵てがみ・初心者アコースティックギター・音読・パソコン・生け花の各講座、及び受講生による生涯学習フェスティバルを実施した。  
 ★高齢者教室:主に高齢者を対象に月1回講演を実施した。

(3) 成果指標

	平成20年度	平成21年度	平成22年度
指標の目標	市民教室 4,000人 高齢者教室 1,100人 フェスティバル動員数 1,200人	市民教室 4,000人 高齢者教室 1,100人 フェスティバル動員数 1,200人	市民教室 3,500人 高齢者教室 900人 フェスティバル動員数 1,200人
指標の実績	市民教室 3,330人 高齢者教室 971人 フェスティバル動員数 994人	市民教室 3,210人 高齢者教室 968人 フェスティバル動員数 1,296人	市民教室 3,016人 高齢者教室 675人 フェスティバル動員数 900人

成果指標の説明(活動の結果目標に照らしてどのような効果があったか)

生涯教育の一環として、18種の教室(講座、講演)を実施した。  
 また年度末に実施した生涯学習フェスティバルでは、東北地方大地震のためステージ部門は中止したが、展示部門で、各教室の受講生が、今年度の学習成果を発表し、多くの市民の来場もあり、地域の生涯学習の拠点として相応しい集い、ふれあい及び情報提供の場となった。



3、状況評価(達成度・効率性)				
(1) 活動指標に対する達成度	点数	理由:(この事業は当初の目標や指標を達成できたか)		
<input type="checkbox"/> 達成度100%以上	3	<p>人気のある教室と人気のない教室の格差があった。 特に今年度は、新しくギターや活け花を開講したが、認知度が低く、また、回数も少なく受講者数も減少した。 高齢者教室も、地域サロンという高齢者の集まりがあり、実施が重なり、受講者も減少した。</p>		
<input checked="" type="checkbox"/> 達成度60～99%	2			
<input type="checkbox"/> 達成度30～59%	1			
<input type="checkbox"/> 達成度29%以下	0			
(2) 成果指標に対する達成度	点数	理由:(この事業は目的に沿って成果をあげられたか)		
<input type="checkbox"/> 大変成果有	3	<p>多様な学習機会や集会の場が提供できた。 一方、受講生の固定化がみられた。</p>		
<input checked="" type="checkbox"/> 概ね成果有	2			
<input type="checkbox"/> ほぼ成果無	0			
<input type="checkbox"/> 成果指標無	-1			
(3) 効率性	点数	理由:(活動量を下げずに経費削減、事業期間短縮、質・量の向上ができたか)		
<input type="checkbox"/> 大変効率よくできた	3	<p>生涯学習という観点から、短期的な目標を掲げて実施しているものではないので、長期的に見ていく必要がある。</p>		
<input checked="" type="checkbox"/> 概ね効率よくできた	2			
<input type="checkbox"/> 効率性が低かった	1			
<input type="checkbox"/> 全く効率性に欠けていた	0			
総合評価	6点			
A かなりの成果を上げ、さらなる向上を目指す重要政策 (9点～7点)		<table border="1"> <tr> <td>評価</td> <td><b>B</b></td> </tr> </table>	評価	<b>B</b>
評価	<b>B</b>			
B 一応の成果を上げているが、維持していく上で改善を必要とする重要政策(6点～4点)				
C 早急な見直しが必要な重要政策 (3点～2点)				
D 当初の目的を達成していないなど、事業そのものの継続が困難な重要政策 (1点～-1点)				

4、今後の事業の方向性(課題と見直し)						
(1) 課題	今後の方向性	維持向上	<b>改善</b>	見直し	休止	終了
<p>市民教室の受講生の固定化。 高齢者教室の受講生の減少。</p>						
(2) 見直しの具体的内容	<p>人数の多い教室もあり、固定化から脱却できるよう、自発的な自主グループの育成を目指す。 高齢者教室においては、講演のテーマを高齢者が分かりやすく且つ、魅力的なものにする。</p>					

5、重要政策に対する意見	
(1) 市民監査委員	<p>市民教室はいろいろな種類の教室があつて楽しいが、受講者数の格差が大きい。そのままではよいかを検討を要する。高齢者教室の参加は減少気味にてであるので、今後、内容等を工夫してほしい。</p>
(2) 教育委員	<p>長く同じ講座を受講されている方もおられ、指導者としてボランティアとして、学ばれたことを還元してほしい。人材バンクをつくり、自治公民館等の活動に派遣したり、学校応援団員になってもらったりするなどして、活躍の場や機会を作ることは生涯学習の推進につながるものである。</p>

様式1:重要政策実施状況評価表

番号			
特別個別名	市民スポーツの推進とスポーツ振興計画策定		
事業期間	平成20年度から平成22年度	担当課	生涯学習課

1、重要政策の目的・目標

事業の概要(目的、内容)

本市は、体育協会を中心とした各種目教会の活動、学校開放事業や地域の愛好者で組織したスポーツクラブなど様々な形でスポーツ活動が行われています。スポーツの振興を図るため、各地区体育振興会の組織充実に努め、市民体育祭、市民駅伝や競り舟などコミュニティコミュニティスポーツを実施すること。

熊本県が平成15年に策定した振興計画の趣旨を踏まえ、スポーツ振興計画の策定に必要な基本的な方針を取りまとめ計画策定を実施すること。

2、投入経費と指標

(1) 投入経費 (単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度
事業費:A(内市費)	( )	0	0
換算人件費:B	135	130	191
投入経費:A+B	135	130	191
(参考)間接事業費			

※換算人件費算出は事業に従事した延べ日数に日当(27千円)を乗じて算出すること。

※(参考)間接事業費は、市予算・国県補助事業費以外で、事業を行うにあたり投入された経費を記入すること。

(2) 活動指標(実行手段)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度
目標	スポーツ振興計画の策定	市民スポーツの推進とスポーツ振興計画の策定	市民スポーツの推進とスポーツ振興計画の策定
実績	スポーツ振興計画の策定委員会規則の設置	スポーツ大会の実施とスポーツ振興計画取り組みへの準備	スポーツ大会とスポーツ施設環境の整備

活動指標の説明(事業として何を実施したか)

市民が利用する総合体育館、南部館、武道館、グリーンスポーツみなまた、城山テニス場、エコパークソフトボール場の11工事を実施し施設環境を整備するとともに、利用促進を図りました。

(3) 成果指標

	平成20年度	平成21年度	平成22年度
指標の目標	スポーツ振興計画策定の組織設立準備	市民スポーツの推進とスポーツ振興計画の策定準備	市民スポーツの推進とスポーツ振興計画の策定
指標の実績	組織の内容について検討	各スポーツ大会を実施し振興を図るとともに、スポーツ振興計画素案の作成ができた。	各スポーツ大会やロアソン小学生教室開催など、振興を図ることができた。

成果指標の説明(活動の結果目標に照らしてどのような効果があったか)

各種スポーツ大会を実施することにより、市民や地域協働で活力ある健康で明るいまちづくりを行うことができた。

スポーツ振興計画は、基本的な方針に不足が生じたため、再検討を行っている状況。

3、状況評価(達成度・効率性)		
(1) 活動指標に対する達成度	点数	理由:(この事業は当初の目標や指標を達成できたか)
<input type="checkbox"/> 達成度100%以上	3	市民スポーツ大会は、市民競り舟大会、市民体育祭、市民駅伝大会など、事業計画どおり実施することができた。
<input checked="" type="checkbox"/> 達成度60～99%	2	
<input type="checkbox"/> 達成度30～59%	1	
<input type="checkbox"/> 達成度29%以下	0	
(2) 成果指標に対する達成度	点数	理由:(この事業は目的に沿って成果をあげられたか)
<input type="checkbox"/> 大変成果有	3	市民スポーツ大会以外に社会体育施設の環境整備や関係種目団体との連携で円滑な運営ができ、多くの市民の行事参加があった。スポーツ振興計画の方針について内部検討を行った。
<input checked="" type="checkbox"/> 概ね成果有	2	
<input type="checkbox"/> ほぼ成果無	0	
<input type="checkbox"/> 成果指標無	-1	
(3) 効率性	点数	理由:(活動量を下げずに経費削減、事業期間短縮、質・量の向上ができたか)
<input type="checkbox"/> 大変効率よくできた	3	スポーツ行事は各種目協会、水俣市体育協会、体育指導委員協議回答と運営方法について見直しを行った結果、大会の参加者が増加し円滑な運営ができた。
<input checked="" type="checkbox"/> 概ね効率よくできた	2	
<input type="checkbox"/> 効率性が低かった	1	
<input type="checkbox"/> 全く効率性に欠けていた	0	
総合評価	6点	
A かなりの成果を上げ、さらなる向上を目指す重要政策 (9点～7点)		評価 <b>B</b>
B 一応の成果を上げているが、維持していく上で改善を必要とする重要政策(6点～4点)		
C 早急な見直しが必要な重要政策 (3点～2点)		
D 当初の目的を達成していないなど、事業そのものの継続が困難な重要政策 (1点～-1点)		

4、今後の事業の方向性(課題と見直し)						
(1) 課題	今後の方向性	維持向上	<b>改善</b>	見直し	休止	終了
スポーツ振興計画の策定準備段階で策定審議会の開催まで至っていないのが現状。策定は懸案事項でもあるので、事務分掌などの見直しにより、執行体制を整えることが必要。						
(2) 見直しの具体的内容	策定委員会の規模縮小によるスムーズな体制で、基本方針を提示した上での検討を進めていく。					

5、重要政策に対する意見	
(1) 市民監査委員	各種のスポーツ大会を通して、市民スポーツの推進が行われ、健康で明るいまちづくりに寄与している。スポーツ振興計画の作成は苦勞が多いが、今後がんばっていただきたい。
(2) 教育委員	市民スポーツ大会の開催など、各スポーツ団体とよく連携協力され、盛り上がったものとなっている。今後は市民の減少高齢化等もあり、事業実施に課題が生じると思われ、スポーツ振興計画はそのためにも必要であり、一刻も早い作成を期待する。

様式1:重要政策実施状況評価表

番号			
特別個別名	給食センターにおける食育・地産地消推進事業		
事業期間	平成20年度から平成22年度	担当課	給食センター

1、重要政策の目的・目標

事業の概要(目的、内容)	給食センターを子ども達が「食」を学ぶ拠点施設として活用し、学校・地域・家庭と連携して、食育を推進する。併せて、生産者の顔が見える地場産食材を使用した安全安心な給食を提供し、地産地消推進事業の充実を図る。
--------------	---

2、投入経費と指標

(1) 投入経費 (単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度
事業費 :A (内市費)	( )	121,241 (121241)	104,893 (140893)
換算人件費 :B			
投入経費 :A + B	0	121,241	104,893
(参考)間接事業費			

※換算人件費算出は事業に従事した延べ日数に日当(27千円)を乗じて算出すること。  
 ※(参考)間接事業費は、市予算・国県補助事業費以外で、事業を行うにあたり投入された経費を記入すること。

(2) 活動指標(実行手段)	平成20年度	平成21年度	平成22年度
目標		・食育の推進 ・地産地消の推進	・食育の推進 ・地産地消の推進
実績		・食育の拠点としての活用 ・地場産食材の増加	・食育の拠点としての活用 ・地場産食材の増加

活動指標の説明(事業として何を実施したか)  
 食育の推進として、食に関する指導を全校で実施し、給食センターの見学や視察を実施し、食育の拠点として活用することができた。また、ホームページで給食センターの情報を毎日発信することができた。地場産食材を使用した給食「ふるさとくまさんデー」を毎月実施し、給食便りで紹介したり、菜種の収穫体験学習を行い、地産地消を推進することができた。

(3) 成果指標	平成20年度	平成21年度	平成22年度
指標の目標 ・食育の拠点としての施設の活用内容 ・地場産食材納入品目数		・食に関する指導、見学、視察、試食会、研修会 ・納入品目数25~30、収穫体験学習	・食に関する指導、見学、視察、試食会、研修会 ・納入品目数25~30、収穫体験学習
指標の実績 上記目標実現のために具体的にやったこと		・施設活用の内容の充実・納入品目37、収穫体験学習3校実施	・施設活用の内容の充実・納入品目38、収穫体験学習2校実施

成果指標の説明(活動の結果目標に照らしてどのような効果があったか)  
 食育の推進としては、昨年度と同じような回数で食に関する指導を実施し、見学・視察や試食会などの施設の活用ができた。地場産食材納入品目は38品目となり、収穫体験学習を2校実施した。今年度の給食センターの取り組みを、給食週間のふれあい教室で、「給食センターにおける食育活動」として報告ができた。

3、状況評価(達成度・効率性)

(1) 活動指標に対する達成度	点数	理由:(この事業は当初の目標や指標を達成できたか)
<input checked="" type="checkbox"/> 達成度100%以上 <input type="checkbox"/> 達成度60～99% <input type="checkbox"/> 達成度30～59% <input type="checkbox"/> 達成度29%以下	3 2 1 0	食育の推進について、目標にあげた取り組みについて、実施できた。地産地消の推進についても、生産者と連携をして、地場産食材の使用品目数も目標を達成し、ふるさとくまさんデー、収穫体験学習も目標どおり実施できた。
(2) 成果指標に対する達成度	点数	理由:(この事業は目的に沿って成果をあげられたか)
<input type="checkbox"/> 大変成果有 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね成果有 <input type="checkbox"/> ほぼ成果無 <input type="checkbox"/> 成果指標無	3 2 0 -1	施設の活用としては、1年生や就学前の幼稚園・保育園の見学・試食会を実施し、有意義な活用ができています。また、新しい取り組みとして、ホームページでその日の給食について情報を発信している。食育や地産地消の推進について、ふれあい教室で報告を行うなど、成果をあげることができた。
(3) 効率性	点数	理由:(活動量を下げずに経費削減、事業期間短縮、質・量の向上ができたか)
<input type="checkbox"/> 大変効率よくできた <input checked="" type="checkbox"/> 概ね効率よくできた <input type="checkbox"/> 効率性が低かった <input type="checkbox"/> 全く効率性に欠けていた	3 2 1 0	学校、関係各課と連携した活動ができた。

  

総合評価	7点		
A かなりの成果を上げ、さらなる向上を目指す重要政策 (9点～7点)		評価	A
B 一応の成果を上げているが、維持していく上で改善を必要とする重要政策(6点～4点)			
C 早急な見直しが必要な重要政策 (3点～2点)			
D 当初の目的を達成していないなど、事業そのものの継続が困難な重要政策 (1点～-1点)			

4、今後の事業の方向性(課題と見直し)

(1) 課題	今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 維持向上	<input type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 見直し	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 終了
今後も、地産地消を推進して、旬の食材を使った安心安全な給食を提供し、給食センターを食育の拠点として活用し、食育の推進に取り組んでいく。						
(2) 見直しの具体的内容	食育・地産地消の推進事業について、家庭・地域・学校や関係各課と連携して、取り組みを充実させていく。					

5、重要政策に対する意見

(1) 市民監査委員	食に関する指導、見学、視察、試食会、ふるさとくまさんデー、収穫体験学習等を通して、食育の推進や地産地消の推進が意欲的に取り組まれている。
(2) 教育委員	給食便りには、ふるさとくまさんデーを設定や、地元生産者を紹介など、児童生徒が地域食材に関心を持つ工夫がされている。ホームページに献立を載せたり、学校へも積極的に出かけるなど、食育推進の拠点として努力されている。また、給食メニューに郷土料理を取り入れるなど、地道ながらも定着の様子が伺える。地産地消というのであれば米飯の回数を増やすことが望ましい。地元の米を使い、ぜひ完全米飯を目指してほしい。

様式1:重要政策実施状況評価表

番号			
特別個別名	第66回熊本県民体育祭水俣市・葦北郡大会開催準備		
事業期間	平成20年度から平成22年度	担当課	生涯学習課 県体推進室

1、重要政策の目的・目標

事業の概要(目的、内容)

県民体育祭の開催により、スポーツの振興と市民の健康増進を図る。  
また、選手や役員など多くの方が来られることから、水俣芦北地域の観光振興を図る機会とする。

- 第66回熊本県民体育祭水俣市・葦北郡大会実行委員会の設立
- 必要に応じ、実行委員会の常任委員会及び大会運営専門部会並びに競技運営専門部会の開催

2、投入経費と指標

(1) 投入経費 (単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度
事業費 :A (内市費)	- ( - )	- ( - )	2,093 ( 2,093 )
換算人件費:B	-	-	14,850
投入経費 :A + B	0	0	16,943
(参考)間接事業費	0	0	17,050

※換算人件費算出は事業に従事した延べ日数に日当(27千円)を乗じて算出すること。

※(参考)間接事業費は、市予算・国県補助事業費以外で、事業を行うにあたり投入された経費を記入すること。

(2) 活動指標(実行手段)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度
目標	-	-	第66回熊本県民体育祭水俣市・葦北郡大会実行委員会の
実績	-	-	H22年9月1日実行委員会設立

活動指標の説明(事業として何を実施したか)

- 4月27日 第66回熊本県民体育祭水俣市・葦北郡大会準備委員会設立総会
- 8月10日 第66回熊本県民体育祭水俣市・葦北郡大会準備委員会総会
- 9月1日 第66回熊本県民体育祭水俣市・葦北郡大会実行委員会設立総会

(3) 成果指標

	平成20年度	平成21年度	平成22年度
指標の目標	-	-	シンボルマーク・スローガン、競技会場、準備品等、懸垂幕・横断幕
指標の実績	-	-	シンボルマーク・スローガンの決定、競技会場の選定、準備品等の調査、懸垂幕・横断幕の設置

成果指標の説明(活動の結果目標に照らしてどのような効果があったか)

H23年9月17日・18日の大会実施に向けて準備・周知を図った。  
○シンボルマーク・スローガン:募集(7月1日~7月30日)、決定(8月10日)  
○競技会場、準備品:競技団体別ヒアリング、三者合同ヒアリング等の実施  
○横断幕:設置(5ヶ所設置:水俣市立総合体育館内、エコパーク水俣、津奈木町B&Gグラウンド、芦北町役場、芦北石油前交差点)  
○懸垂幕:設置(4ヶ所設置:水俣市立総合体育館、津奈木町教育委員会、芦北町田浦基幹支所、芦北地域振興局)

3、状況評価(達成度・効率性)			
(1) 活動指標に対する達成度	点数	理由:(この事業は当初の目標や指標を達成できたか)	
<input checked="" type="checkbox"/> 達成度100%以上 <input type="checkbox"/> 達成度60～99% <input type="checkbox"/> 達成度30～59% <input type="checkbox"/> 達成度29%以下	3 2 1 0	大会実施に向けて推進体制を確立した。	
(2) 成果指標に対する達成度	点数		理由:(この事業は目的に沿って成果をあげられたか)
<input checked="" type="checkbox"/> 大変成果有 <input type="checkbox"/> 概ね成果有 <input type="checkbox"/> ほぼ成果無 <input type="checkbox"/> 成果指標無	3 2 0 -1		大会実施に向けて準備・周知を図った。
(3) 効率性	点数		
<input type="checkbox"/> 大変効率よくできた <input checked="" type="checkbox"/> 概ね効率よくできた <input type="checkbox"/> 効率性が低かった <input type="checkbox"/> 全く効率性に欠けていた	3 2 1 0	実行委員会事務局は、水俣市、芦北町、津奈木町からの寄り合い所帯ながら概ね効率よくできた。	
総合評価	8点		
A かなりの成果を上げ、さらなる向上を目指す重要政策 (9点～7点)		評価 <b>A</b>	
B 一応の成果を上げているが、維持していく上で改善を必要とする重要政策(6点～4点)			
C 早急な見直しが必要な重要政策 (3点～2点)			
D 当初の目的を達成していないなど、事業そのものの継続が困難な重要政策 (1点～-1点)			

4、今後の事業の方向性(課題と見直し)		
(1) 課題	今後の方向性	維持向上 改善 <b>見直し</b> 休止 終了
○大会の在り方を見直していく時期にきている。目的となっている地域振興、地域スポーツ力向上などは66回の回数を重ね一定の役割を終えたのではないか。効果が疑問。市町村の財政的負担、人的負担の見直しも必要。		
(2) 見直しの具体的内容		
○大会の在り方については県体育協会で見直し ○市町村のかかわり方		

5、重要政策に対する意見	
(1) 市民監査委員	水俣市、津奈木町、芦北町が連携を取り合い、大会の準備がスムーズになされている。大会の成功を祈っている。大会は65回を重ね、今後の大会のあり方は十分な検討が必要と考える。
(2) 教育委員	実行委員会の設立、関係機関との様々な協議等、大会開催にあたり努力されている。終了後、成果や課題に対して十分な分析をされ、今後の大会運営の示唆となるようにまとめていただきたい。